目的

長期維持透析患者の意思決定支援を行い、透析の見合わせを選択した事例を報告する。

倫理的配慮

プライバシーの保護について説明し、書面にて同意を得た。

事例

- A氏　80歳代　男性
- 原疾患　糖尿病性腎症
- 透析歴　22年間
- 妻と二人暮らし　キーパーソン　娘
- 認知機能の低下はなし
- 重症の大動脈弁狭窄症を合併していたが、観血的治療は拒否していた

既往歴

- 50歳代　糖尿病
- 60歳代　眼底出血
- 70歳代　右腎細胞癌根治的摘出
- 80歳代　完全房室ブロック
  ペースメーカー植込み

合併症

- 大動脈弁狭窄症（重症）

経過

20XX年　４月

医師

大動脈弁狭窄症が進行しています。治療をした方が良いと思います。

今まで沢山手術をしてきた。
もう手術はしたくない。

A氏

6月

医師

胸水が貯まってきています。
DWを下げた方が良いです。

歩くと息苦しくなっている。
でも、DWは下げたくないです。

A氏

看護師

息苦しさを軽くするために、
DWは下げた方が良いと思います。

症状が楽になるなら．．．
下げて様子をみてみるよ。

A氏

経過

8月

医師

透析中の血圧を上げるために、薬（ｱﾒｼﾞﾆｳﾑﾒﾁﾙ硫酸塩錠）を飲んでみましょう。
今後の方針について家族を含めて話し合いをしたいです。
よろしいですか？

A氏

水が引けないのか．．．
安全な透析ができなくなったら、透析を中止したい。
人生に悔いはない。
家族も理解している。何かあった時は、救急車は呼ばないで欲しい。
家族には話してあるから、話し合いはしなくて良いです。

看護師

最善を一緒に考えたいので、話し合いの時間を作ってもらえませんか？
通院が辛かったら、午前クールに移動して、送迎車を利用するのはどうですか？

A氏

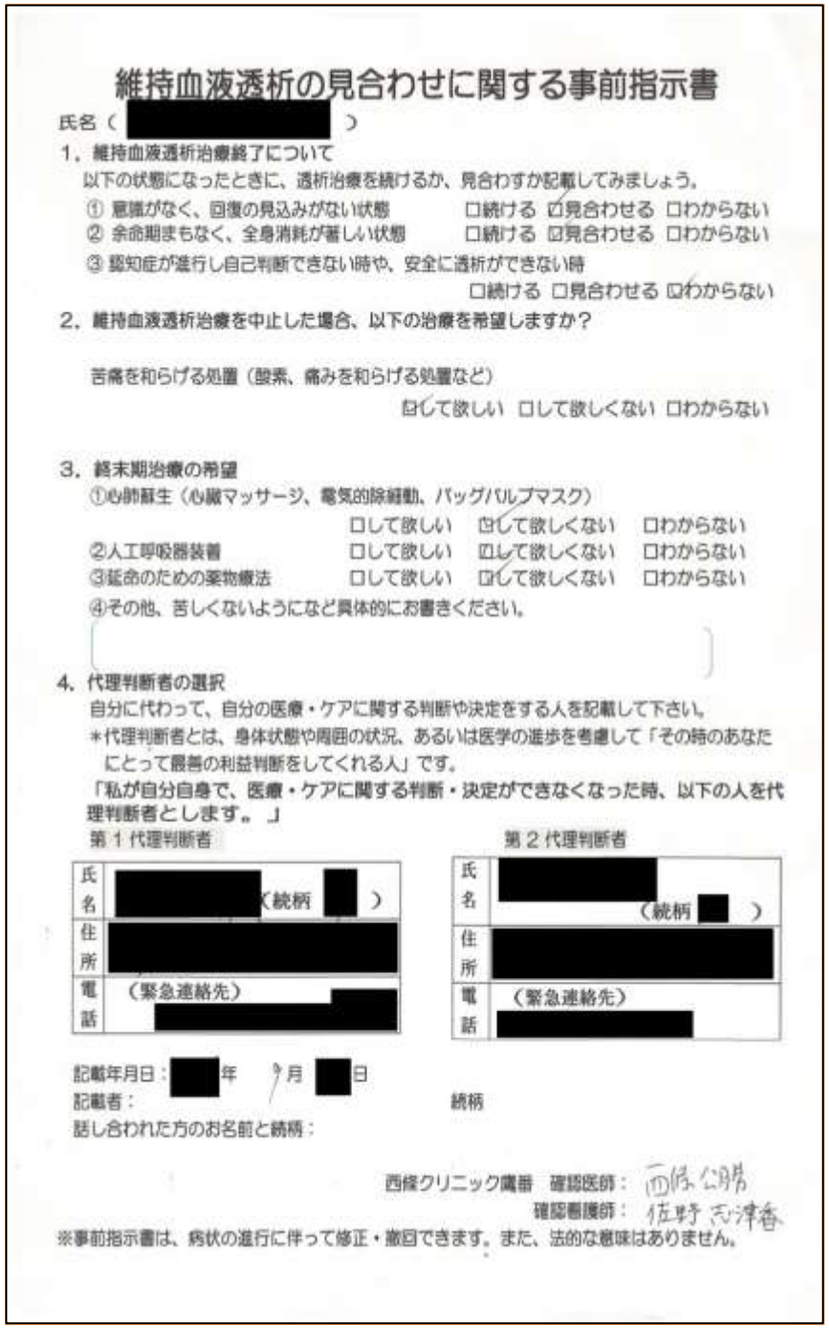
分かりました。面談をお願いします。
辛い時は、タクシーを使うよ。

家族

父から話は聞いています。
面談の時に色々お話します。

9月　面談

- 再度、観血的治療の説明を実施も、希望されなかった。
- 「維持透析の見合わせに関する事前指示書」に沿って、A氏、家族の意思を確認した。
- A氏の意思で透析治療を中止する。
- 透析治療中止後は、娘さんを中心に、家族で介護する。
- 透析治療は再開できると、説明した。



維持血液透析の見合わせに関する事前指示書

氏名（[redacted]）

1．維持血液透析治療終了について

以下の状態になったときに、透析治療を続けるか、見合わすか記載してみましょう。

① 意識がなく、回復の見込みがない状態　□続ける ☑見合わせる □わからない

② 余命期まもなく、全身消耗が著しい状態　□続ける ☑見合わせる □わからない

③ 認知症が進行し自己判断できない時や、安全に透析ができない時　□続ける □見合わせる ☑わからない

2．維持血液透析治療を中止した場合、以下の治療を希望しますか？

苦痛を和らげる処置（酸素、痛みを和らげる処置など）　☑して欲しい □して欲しくない □わからない

3．終末期治療の希望

①心肺蘇生（心臓マッサージ、電気的除細動、バッグバルブマスク）　□して欲しい ☑して欲しくない □わからない

②人工呼吸器装着　□して欲しい ☑して欲しくない □わからない

③延命のための薬物療法　□して欲しい ☑して欲しくない □わからない

④その他、苦しくないようになど具体的にお書きください。

4．代理判断者の選択

自分に代わって、自分の医療・ケアに関する判断や決定をする人を記載して下さい。

＊代理判断者とは、身体状態や周囲の状況、あるいは医学の進歩を考慮して「その時のあなたにとって最善の利益判断をしてくれる人」です。

「私が自分自身で、医療・ケアに関する判断・決定ができなくなった時、以下の人を代理判断者とします。」

	第１代理判断者	第２代理判断者
氏名	[redacted]（続柄 [redacted]）	[redacted]（続柄 [redacted]）
住所	[redacted]	[redacted]
電話	（緊急連絡先）[redacted]	（緊急連絡先）[redacted]

記載年月日：[redacted]年 9月 [redacted]日

記載者：　続柄

話し合われた方のお名前と続柄：

西條クリニック鶴瀬　確認医師：西條公男

確認看護師：佐野志津香

※事前指示書は、病状の進行に伴って修正・撤回できます。また、法的な意味はありません。

面談時の思い、考え

- A氏：自分の意思は決まっている。水が引けなくなったら透析は中止したい。最期まで自宅で過ごしたい。

- 家族：本心は、治療をして１日でも永く生きて欲しい。でも、父の意思を尊重します。最期まで、家族で介護します。

- 看護師：看護師として、治療につなげるべきではないかと葛藤があった。A氏、家族の意思を確認し、医療チームで協力して支援を行っていくことを決意した。

経過

11月

看護師

透析後、辛そうに見えます。午前クールに移動して、送迎車を利用する、または、透析室出入り口まで、家族に付き添ってもらうのは、いかかですか？

みんなが側にきて話をしてくれるのが嬉しい。
おかげで頑張って通院できているよ。

A氏

心配してくれてありがとう。
でも、今のままが良いから。

A氏

12月

医師

透析治療を中止します。
いつでも再開できるので、再開したいときは連絡ください。

前回の透析後、とても辛かったと言っていた。もう透析にはいかないと言っている。

家族

経過

12月

透析治療終了16日目

看護師

その後、体調はいかがですか？

家族

透析を止めてから、精神的には元気になっていた。数日前から食べる量が減っている。覚悟しています。

透析治療終了18日目

医師

往診。
間欠的な心窩部痛、右側腹部通みられる。ﾓﾙﾋﾈ坐薬、ﾌｪﾝﾀﾆﾙﾃｰﾌﾟ処方。

家族

心窩部痛、腹痛を訴えています。

透析治療終了21日目　　**永眠**

家族からの言葉

- どんな形でも、もっと生きて欲しいと思ったこともありましたが、自宅で満足そうに過ごしている父を見て「父らしいなぁ」と納得させられました。
- 皆さんから声をかけてもらい、いつも励まされました。特に、電話は父がとても喜んでいました。父と過ごせた最期は宝物になりました。

考察

- 生命に直結する判断の支援を行うにあたり、看護師として治療につなげるべきではないかと葛藤があった。
- A氏と家族と医療チームの架け橋となれるよう最後まで努力し、スタッフと情報共有を図り、支援を行えたことが意思の実現に繋がったと考える。

結語

- 意思決定支援を行う上で、葛藤を抱く医療スタッフは多いと思われる。葛藤を乗り越え、支援を最後まで行うには、スタッフに相談できる環境とサポートが重要である。
- 今回の事例から、架け橋となるには、声がけ、傾聴、共感、ねぎらいなどコミュニケーションがとても重要であることを学ぶことができた。今後も、看護を行う上で大切にしていきたい。

日本透析医学会学術集会
COI 開示

筆頭発表者名：　佐野　志津香

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。